

風水住宅を訪ねて

東京都世田谷区 H様邸



『円』をデザインの基調としたダイニングは人が自然に集う素敵な空間に仕上がりました。

夫婦の深い『絆』と家族の『愛』をより一層育める家を創りたい。永い間、いろいろな借家に移り住みながらも一途に願っていたことを実現する日がやってきた。施主の思いはただひとつ。愛娘たちが巣立つ前に理想の家を建て、至福の時間を共に過ごすこと。いま家族と家に居るときが一番の幸せだという。幸福は『家』に宿る。

「運命の赤い糸」に導かれた出会いが 若いふたりを東京の地へと結びつけた

主人との初めての出会いは、私たちが大学受験をする前に通っていた予備校でした。無事にふたりとも大学に受かったのですが、主人は東京へ私は京都へ、別々の大学に行くことになり、手紙と帰郷したときにだけ会うという、いまの時代では信じられないような「遠距離恋愛愛」でした。

主人は、大学在学中から公認会計士を目指していました。卒業後は、専門学校で講師の仕事しながら国家試験を受けるために勉強に励み、私は地元（元）の教育委員会の仕事に就きました。出会った当初から「絶えず目標をもち、まじめに何にでも一生懸命」に

向き合う人だな、と同年代の男の子たちにはない人柄と不思議な魅力に惹かれて、気がつくや7年の月日が経っていました。

「これから一緒に暮らそう」。プロポーズの言葉はこれだけでした。生活が不安定になることは事前からわかっていましたが、一緒に東京に行くことや共働きをすることに、まったく不安はなかったですね。ただ双方の両親が猛反対で。ところが主人のお母さんが困ったときに相談する先生に、生年月日と氏名を告げただけで、「この結婚は良い」と言われ、お母さんも応援してくれるようになり、最後は皆に祝福され晴れて故郷を後にすることができました。

このときの体験が、主人が松永先生からのカウンセリング結果を持ち帰ったときに不思議と納得がいった遠因だったのかも知れません。

「最愛の家族」と暮らす「至福の場所」 家を創ることは、幸福を紡ぎだすこと

結婚してすぐに主人は国家試験に合格し、監査法人に就職しました。初めての新居は埼玉の賃貸マンションからでした。その後、何力所か転居した後、三島にマンションを購入し、主人は新幹線通勤を5、6年しました。富士山や駿河湾が一望でき、ちょうどふたりの娘が幼稚園から小学校へと通う頃となり環境的には最高でした。大自然の中でのびのびと暮らせる幸せと喜びを感じていましたが、毎日、始発に乗り終電で帰って来る主人の体力の限界が来ました。そこで、目黒に一軒家を借りることにしました。

この間、主人の人生も大きく変わっていききました。出向先で身につけたコンサルティング業務に傾倒していった主人が、「独立」をすることになりました。会社勤めの時代も、顧客の要望に応えるために土日働き、家に帰ってから絶えず深夜まで仕事をする

姿を見ていましたので、「独立」とすると聞いても驚くというより「いつかは」と感じていましたので、その日が来たのだと思いました。その頃、子供から「お父さん、運動会に何回来たか知ってる？」などと言われることに、どこか寂しさや悔しさがあったのではないかと主人の心の内を感じていました。

娘たちが中学・高校に進学した頃、賃貸期限が来たことを理由に、学校から近い今の場所に良い土地が見つかったこともあり、憧れていた新居を建てました。以来7年間、ここで何となく自由なく生活してきたのですが、ある日突然、主人が慌てて帰宅すると寝室のレイアウトを変え始めました。「この場所に寝ていると癌になる可能性があるらしいよ」と松永先生に鑑定してもらった図面を見せて話し始める主人を見て、主人の身体の不調を感じていた私もびっくりしました。

その後、すぐに改築の話を進め、すべて松永先生にご依頼した「新居」が完成しました。

その変わり様は、住み始めてすぐに気がきました。家の中がいつも温かく、穏やかな空気がいつも家族を優しく包んでくれています。今は娘たちの巣立つ場を創るという最後の目的を達成できた喜びを夫婦で毎日、感じています。



シンメトリーに掛けられた壁レリーフが光に浮かび上がる様は、さながら『非現実』的な世界観を玄関ホールに表現しています。